

ボツワナ共和国月報(2018年11月)

主な出来事

【内政】

- マシシ大統領の所信表明演説
- マシシ大統領, 同性愛を擁護
- NPFの略奪はボツワナの歴史上最大のホワイトカラー犯罪

【外政】

- マシシ大統領, AU特別総会に参加
- ドイツ大統領訪問が絆を強める
- パレスチナ人民国際連帯デー

【経済】

- デビアス社のダイヤモンド鉱山への大規模投資見込み
- デブスワナ社, 第9次拡張(カット9)工事の請負業者を1月に公表へ
- Tlou Energy 社, ガス発電プロジェクトを開始

【文化】

- マウンの学校が日本との絆を深める
- 児童絵画展の開催

【内政】

○ マシシ大統領の所信表明演説

5日, マシシ大統領は, 国会の開会に際し, 大統領就任後初となる所信表明演説を行った。雇用創出, 経済多角化(資源経済から知識集約型経済への移行), 投資呼び込, 輸出拡大, 人材能力強化等の政策を中心とした中身となっている。ボツワナは, アフリカ大陸自由貿易圏協定(AfCFTA)にまだ署名していない国の一つであるが, 2019年1月のAU総会で署名する意思を表明した他, 演説の結びではカーマ前大統領との確執問題に触れた。(6日: デイリー・ニュース紙他)

○ ボツワナ民主党(BDP)は2選挙区で予備選のやり直し

バロピ・ボツワナ民主党(BDP)事務局長によると, 本年8月に実施された2019年の総選挙に向けたBDPの予備選挙において不服が申し立てられた24選挙区のうち, ボボノン(Bobonong)及びカラハリ・ノース(Kgalagadi North)の2か所でのみ選挙をやり直すことになった。(16日: メヒ紙)

○ 下痢症流行の終息宣言

15日, マディヘレ保健・福祉大臣は, 8週間続き31名の死者を出した下痢症のアウトブレイクが終息したと公式に発表した。9月2日から11月3日の間に41, 556件の下痢症が確認され, そのうち80%が2歳以下の子どもであった。(19日: デイリー・ニュース紙)

○ 独立した人権団体の設立

20日及び21日、ボツワナ政府とUNDPは人権シンポジウムを開催し、開会式に参加したモレフィ大統領府・統治・公共政策担当大臣は、ボツワナ政府はオンブズマンの権限を拡大し人権問題を扱う権限をあたえる予定であると述べた。また、右政府の決定は、2013年にジュネーブで開催された国連人権理事会普遍的定期審査(UPR:Universal Periodic Review)での提案を受け入れたことによるものであると述べた。(21日:デイリー・ニュース紙)

○ マシシ大統領同性愛を擁護

25日、「16日間の女性・子どもに対する暴力反対運動」の開会式に参加したマシシ大統領は、スピーチの中で「同性愛者も他の人々と同じように、彼らの権利は守られなければならない」と述べ、同性愛を擁護する発言をした。(当館注:当国の刑法では同性愛は犯罪とされている。)

○ NPFの略奪はボツワナの歴史上最大のホワイトカラー犯罪

29日、2億5000万プラの国家石油基金(National Petroleum Fund: NPF)の不正使用に関する公判がハボロネの治安判事裁判所(Magistrate Court)で開かれ、高等裁判所判事、元鉱物資源・環境保全技術・エネルギー安全保障大臣を含む6名が本件に関する65の罪で審理された。公判は2019年2月18日に持ち越しになっている。(30日:メヒ紙)

【外交】

○ ボツワナと中国は人的資源開発に係る交換書簡を締結

12日、モレフィ大統領府・統治・公共政策担当大臣及び習中国国際開発協力機構(CIDCA)副理事長が同書簡に署名した。同書簡は人的資源開発及びボツワナと中国の人的交流の促進に関して協力を強化する枠組みを提供するものである。習副理事長は、今次ボツワナへの訪問の目的が友好関係の促進とFOCAC成果の実施に係るフォローアップである旨発言し、また中国がこれまで1100名に対して研修を行っており、今年については様々な分野で更に170名のボツワナ人に対して研修を行うことが計画されていたが、対象人数は209名にまで増加する旨述べた。(13日:デイリー・ニュース紙)

○ 外交団が信任状を奉呈

12日、マシシ大統領は、カスティーリョ(Castillo)パナマ大使、カルバーリョ(Carbalho)ポルトガル大使、アル・ジャベール(Al-Jaber)カタール大使及びカベイル(Kabeir)スーダン大使から信任状を受け取った。(14日:デイリー・ニュース紙)

○ セレビ・ピクウェ職業訓練校施設整備計画の引渡式

15日、竹田大使はセレビ・ピクウェで、被供与団体「ヒュマナ・ピープルトゥー・ピープル」に対し、職業訓練用機材を引渡した。大使は、草の根人間の安全保障無償資金協力は今年で30周年を迎え、ボツワナを含む141か国で実施されていると述べた。(21日:デイリー・ニュース紙)

○ ビザの自由化政策が観光に恩恵を与える

16日、ツェケディ・カーマ環境・天然資源保護・観光大臣はメディアに対し「政府がボーダー・ポストでもビザを取得できるよう調査することを決定したことは大変喜ばしいことであり、これまで観光客がボツワナを訪問することを妨げてきた問題の一つが解決するかもしれない」と述べた。(19日:デイリー・ニュース紙)

○ マシシ大統領, AU特別総会に参加

17日及び18日に、アディスアベバにおいて開催された第11回AU臨時総会にマシシ大統領及びダウ外務大臣が参加した。インタビューでマシシ大統領は、ボツワナはこれまでAUへの負担金を期限どおりに払ってきた忠誠心の強いメンバーだと述べた他、ボツワナがアフリカ・ピア・レビュー・メカニズムの一員になったことを明かした。(19日及び20日:デイリー・ニュース紙)

○ ドイツ大統領訪問が絆を強める

21日から22日にかけてシュタインマイヤー独大統領がボツワナを訪問し、マシシ大統領と首脳会談を行い、貿易及びエネルギー分野での協力につき話し合った。また、ドイツ機械工学産業協会と雇用・労働生産・技能開発省の協力関係の開始式に参加した他、SADC事務局長との会談を実施した。(23日:デイリー・ニュース紙)

○ 日本はボツワナを引き続き支援する

22日、天皇陛下の85歳の誕生日を祝うレセプションが開催され、竹田大使はスピーチの中で、ボツワナに対し人材開発及び民間投資の促進を強化すると述べた。さらに、TICADを通じた貢献、SADCへの技術協力、5月に開催された日アフリカ経済フォーラムに言及した。ボツワナ側からは、ユニティ・ダウ外務国際協力大臣が主賓として参加した。(26日:デイリー・ニュース紙)

○ パレスチナ人民国際連帯デー

29日、「パレスチナ人民国際連帯デー」(International Day of Solidarity with Palestinian People, 日)の式典に参加したダウ外相は、「ボツワナは引き続きパレスチナの人々の譲ることができない権利である自己決定の探求、及び、自由、平和、尊厳及び安定した存続の追求を断固として支援する」と述べパレスチナとの結束を表明した。

(12月7日:ボツワナ・ガーディアン紙)

○ 「サウスイースト地区カーリーヒル中等学校特別支援学級建設計画」引渡式

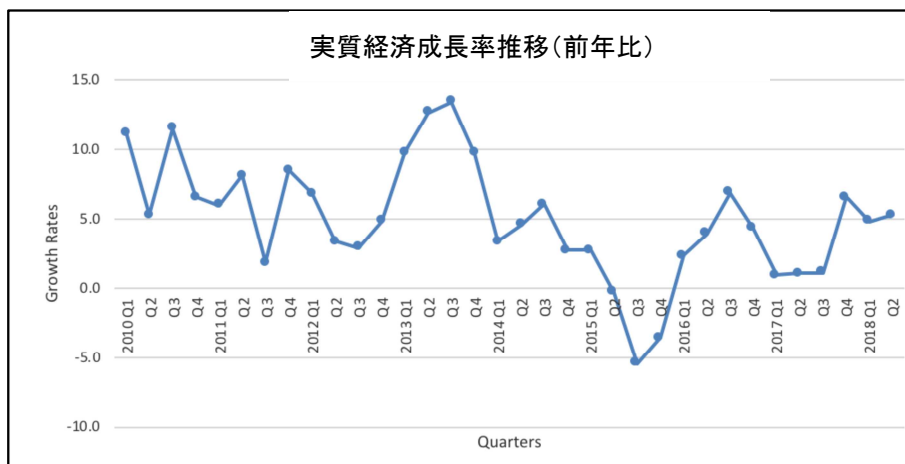
29日、竹田大使は、草の根人間の安全保障無償資金協力で建設された特別支援学級棟をカーリーヒル中等学校に引渡した。これにより、約60名の障がいのある生徒が適切な環境で教育を受けられるようになる。竹田大使は、日本はこれまで障がいがある児童の教育に関連した6件のプロジェクトをボツワナで実施してきたと述べた。

【経済】

○ ボツワナの主要経済指標

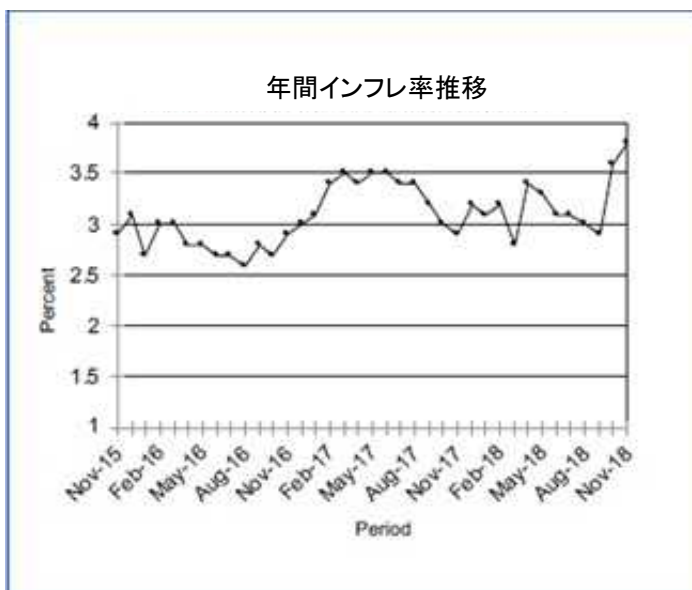
1) 経済成長率(出典:ボツワナ統計局)

2018年第2四半期の GDP は473億6270万プラとなり、第1四半期(461億5250万プラ)と比べて2.4%増となった。(2017年GDP合計は1801億1270万プラ)



2) 年間インフレ率(出典:ボツワナ統計局)

2018年11月は3.8%(10月は3.6%)。



3) 為替レート(出典:First National Bank of Botswana)

2018年11月30日

1プラ=0.092米ドル

1プラ=1.251南ア・ランド

1プラ=10.60円

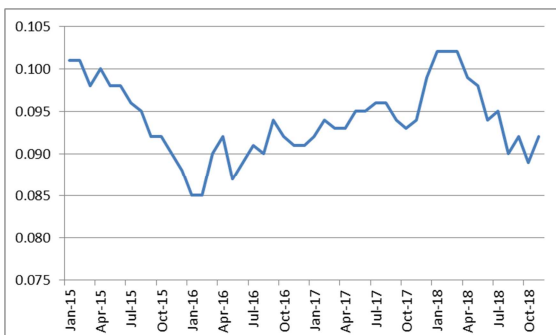
2018年10月31日

1プラ=0.089米ドル

1プラ=1.299南ア・ランド

1プラ=10.24円

[米ドル] 為替推移(1プラ=〇米ドル)



[円] 為替推移(1プラ=〇円)



○ ダイヤモンド産業

1) ルカラ・ダイヤモンド社, ダイヤモンド及び原鉱の生産予測を見直し

9日, ルカラ・ダイヤモンド社は2018年のダイヤモンド及び原鉱の生産が当初の計画よりも増加すると発表した。ダイヤモンドは当初予定していた27~29万カラットから32.5~35万カラット, 原鉱は当初予定していた250~280万トンから290~310万トンに増加する見通しである。(16日:サンデー・スタンダード紙)

2) デビアス社のダイヤモンド鉱山への大規模投資見込み

13日, ハボロネで行われたダイヤモンド会議においてクリーバー・デビアス社社長は今後5年から6年にかけて100億~110億米ドルをダイヤモンド鉱山に投資する旨発言した。デビアス社は, デブスワナ社(当館注:ボツワナ政府とデビアス社との合弁企業)を通じ, ボツワナ政府と共同で現在ジュワネン鉱山の第9次拡張(カット9)及びオラパ鉱山の第3次拡張(カット3)プロジェクトへの準備を進めている。クリーバー社長は, デビアス社とボツワナ政府がこれらのプロジェクトにいくらか投資するかについて決定していないが, 非常に多くの額を費やすことになる旨, また別途, デビアス社が南ア・リンポポ州のベネチア鉱山に300億プラを投資する旨発言した。(16日:ボツワナ・ガーディアン紙)

3) デビアス社の人工ダイヤモンド市場への参画で競合の人工ダイヤモンド価格が30%下落

デビアス社は6週間前から人工ダイヤモンドの生産を開始しており, 同社の人工ダイヤモンド市場への参画により, 米国での競合他社のダイヤモンド価格は30%下落した。(16日:メヒ紙)

4) ボツワナとロシア、キンバリープロセス認証制度副議長の座を巡り、こう着状態

ボツワナとロシアは紛争ダイヤモンドの取引を監視するキンバリープロセス認証制度(KPCS)の副議長国への座を巡りどちらも譲らず、交渉は難航している。交渉の中でロシアはボツワナに対し、ボツワナが副議長国のポストを譲る代わりにモスクワにおけるボツワナ大使館の開設を提案しているようである。同交渉は12月31日まで継続される見通しである。(23日:メヒ紙)

5) デビアス社の第9期ダイヤモンド原石会売上げ、2018年中で最低

デビアス社の第9期ダイヤモンド原石販売会の売上げは、4億4000万米ドルとなり、前年度同時期の売上げから5.5%減少し、2018年の中で最低となった。(25日:サンデー・スタンダード紙)

6) デブスワナ社、第9次拡張(カット9)工事の請負業者を1月に公表へ

デブスワナ社は、ジュワネン鉱山の第9次拡張(カット9)の工事請負業者を来年1月に公表する予定である。30億米ドルを費やした第8次拡張(カット8)の工事は3企業のジョイントベンチャーである Majwe Mining 社が請け負っており、同社の契約は今年11月24日で終了している。関係者によると、デブスワナ社が Majwe Mining 社にカット9の工事を委託するという保証はない由。(30日:メヒ紙)

○ エネルギー・資源

1) Tlou Energy 社、ガス発電プロジェクトを開始

Tlou Energy社はガス発電プロジェクトにおける初期の工事であるガス井の掘削を開始した。同社の発表によると、計画しているガス加工施設の近くに6つのガス井を掘削する予定であり、来年初めまで数週間にわたり掘削を実施する見込みである。(23日:ボツワナ・ガーディアン紙)

○ Doing Business報告書におけるボツワナの順位低下

今週発表された世界銀行が発行する2019年Doing Business報告書(当館注:ビジネス環境の良さをランク付けするもの)において、ボツワナは190か国中、86位となった(昨年度81位)。アフリカ諸国の中では20位モーリシャス、29位ルワンダ、60位モロッコ、61位ケニア、80位チュニジア、同80位南アに次いで7番目に高い順位となった。(3日:ウイークエンド・ポスト紙)

【文化】

○ マウンの学校が日本との絆を深める

9日、立命館慶祥高校の学生39名が、昨年の文化交流に続きマウン高校に2回目の訪問をし、討論、ゲーム、スポーツ等を通じ交流した。右交流は立命館慶祥高校からアプローチしたのが始まり。(13日:デイリー・ニュース紙)

○ **児童絵画展の開催**

5日～9日にかけて、ハポロネのペンテマ小学校で、横浜市都筑区茅ヶ崎小学校の児童画約130点が展示された。同様に、12月20日～27日には都筑区役所で、また2019年3月2日～28日には JICA 横浜で、茅ヶ崎小学校の児童画及びペンテマ小学校の児童画が展示される予定。